

膝前十字靭帯損傷に合併した外側半月板損傷と同靭帯再建術後に 残存する pivot shift の関連：コホート研究

○山内 翔平^(MD) (やまうち しょうへい)¹⁾, 千葉 大輔^(MD) ²⁾, 山本 祐司^(MD) ²⁾,
木村 由佳^(MD) ²⁾, 佐々木 静^(MD) ²⁾, 津田 英一^(MD) ³⁾, 石橋 恭之^(MD) ²⁾

¹⁾ つがる総合病院 整形外科

²⁾ 弘前大学 整形外科学講座

³⁾ 弘前大学 リハビリテーション医学講座

【目的】

近年、前十字靭帯 (ACL) 損傷に合併する外側半月板損傷 (LMT) は、前外側不安定性 (Anterolateral instability: ALI) の発生と関連することが報告されているが、いずれも time-zero の生体力学研究や臨床研究が中心で、縦断的に見た LMT と ALI の関連は不明である。本研究の目的は、前十字靭帯再建術 (ACLR) 後 1 年の患者を対象に LMT 合併の有無と ALI の関連を検討することである。

【対象と方法】

当科で解剖学的 2 重束 ACLR を施行した 242 例を対象とした。術中鏡視所見から LMT のない対象を I 群とし、LMT を有する対象を縫合無し (U 群) と縫合あり (R 群) で分けた。術後 1 年の外来診察における pivot-shift test で、IKDC grade 1 以上を ALI ありと定義し、カイ 2 乗検定で LMT と ALI の割合を全体と男女別で比較した。

【結果】

対象症例のうち、26 例 (10.7%) に ALI を認めた。I 群 89 例中 6 例 (6.7%)、LMT を有する 153 例中 20 例 (13.1%) に ALI を認め、I 群よりも ALI の割合が多かった (13.1% vs 6.7%, $P=0.125$)。153 例中 U 群は 97 例、R 群は 56 例であった。R 群の 9 例に ALI を認め (16.1%)、I 群よりも ALI の割合が多かった (16.1% vs 6.7%, $P=0.072$)。男性 87 名のうち、R 群 21 例で、このうち 5 例 (23.8%) に ALI を認め、I 群 37 例中 3 例 (8.1%) よりも ALI の割合が多かった ($P=0.104$)。女性 155 名のうち、U 群 68 例で、このうち 9 例 (13.2%) に ALI を認め、I 群 52 例中 3 例 (5.8%) よりも多かった ($P=0.177$)。

【考察】

ACL 損傷に LMT を合併した場合、ALI の割合が多く、その影響には性差を認めた。LM 縫合の適応は性別などの基礎情報を基に、慎重に考慮する必要がある。